

# 市長とミライとーく 報告書

令和7年7月17日

日 時	令和7年6月25日(水) 13:30 ~ 15:00		
会 場	関市役所7階 つなぐガーデン (関市若草通3丁目1番地)		
対 象 者	関市在住・在勤・在学の方	参加者	10人
テ ー マ	障がいがあってもなくてももっと暮らしやすく！		
担 当 課	健康福祉部 福祉政策課		

## 【参加者からの意見】

○日常生活で不便に感じるのはどんな場面か

- ・トイレにベビーシートの設置はあるが、ユニバーサルシートの設置がない。ベビーシートは大人には狭く、おむつを替えられない。
- ・障がい者には、実年齢と精神年齢が異なる人がある。公園は12歳制限の遊具が多く、遊びたくても遊べない場合がある。
- ・医療的ケア児を受け入れてくれる施設が少ない。また、卒業後の生活の場が少ない。
- ・事業所の偏りがある（日中支援型GHは市内に1か所しかない）
- ・せきてらすの身障駐車場の後ろに看板があり、危ない。また、軒下まで距離があり、雨の日に濡れてしまう。
- ・精神手帳3級だとおもいやり駐車場が使えず、不便。
- ・公共施設の駐車場に屋根がなく、通路も十分な幅の確保がされていない。
- ・学校生活では健常者と障がい者を分けているが、社会では一緒になるため、一度分けたものを一緒にするのが難しい。
- ・手帳を見せないと配慮してくれない。また、手帳を出すことでマイナスに捉える人もいる。
- ・子どもが病気を発症し、仕事を続けられなくなった。今は働き方も見つからない。
- ・きょうだいで出かけられる場所が少ない。

## 【参加者からの提案】

○不便を軽減するためにどのような支援が必要か

- ・ユニバーサルシートを設置したり、事務室にベッドを用意して「大きいベッドをご利用の方は事務室へ」等の貼り紙をトイレに用意したりするとよいのでは。
- ・重度障害者大学就学支援補助金の設置があるとよい。
- ・年齢制限なくだれでも遊べる遊具があるとよい。
- ・誰一人残さない公共空間が必要。行政サービス提供車両があるとよいのでは。
- ・健常者と障がい者が交わる場があると相互理解に繋がるのではないかと。

- ・相談支援事業所が減少しているため、名古屋市のようにセルフプランを取り入れるとスムーズでは。
- ・障がい者に便利な機能を備える施設を優遇する補助金があるとよいのでは。
- ・子どもがクールダウンできる部屋があるとよい。
- ・遊び場が分かるポータルサイトがあると障がい者が調べやすい。
- ・ユニバーサルデザインの全天候型遊び場や公共施設があると誰もが便利になる。

○だれでも参加・交流できる取組みについて

- ・「真剣 Biz（マジビズ）」のような子どものために大人が力を貸すイベントがあるとよい。
- ・「くらしみんなの広場」のような多岐にわたるイベントがあると誰でも参加しやすいのでは。
- ・幼少期からインクルーシブな場に触れることが大事なので、困り事を設定し、それを解決する道具（自助具）を作るイベントやワークショップがあるとよい。

**【担当者の考え】**

今回のミライと一くで自身に障がいのある方、親族に障がいのある方がいる方、業務上障がいのある方と接する機会が多い方など日常的に障がいと向き合う場面が多い方たちからのリアルな意見をいただくことができた。

いただいた意見を通して、障がいのある方が日々どのような困難と相対しているのかを再認識することができた。

障がいの有無に関わらずどんな立場の方でも住みよいと感じてもらえるようなまちを目指して、各意見について対応を検討し、本市の障がい福祉の充実を目指していく。

また、今回の交流イベントに係る募集の中の一部の表現について強い不満があるという旨の意見もいただいたため、各媒体にて障がいのある方々に向けての周知を行う際、最大限の配慮を心がけていく。

**【今後の対応】**

- ・関市障がい者計画を軸とした障がい福祉施策の推進
- ・障がいのある方への周知時における柔らかい表現の配慮

【当日の様子】

